

平成31年度 病害虫発生予察情報

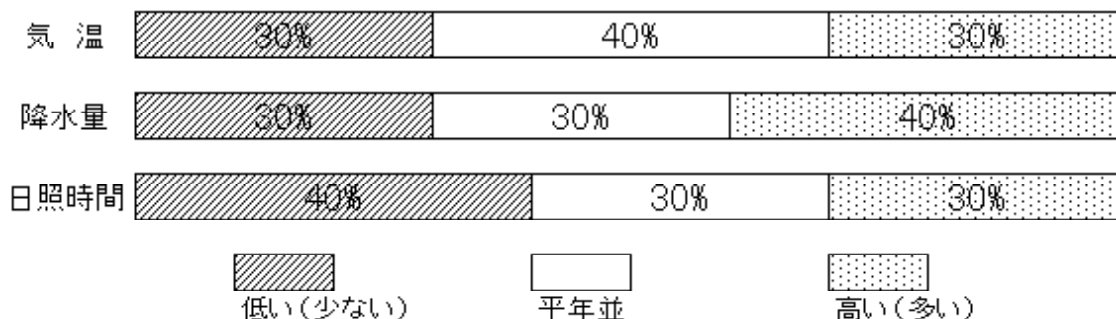
発生予報 第1号 (4月)

平成31年 4月 2日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	やや少ない
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	休ミズウムシ	やや多い
	ナシ	黒斑病	やや多い
		ハダニ類	やや少ない
野菜	タマネギ	ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		白色疫病	平年並
		べと病	平年並～やや多い
		腐敗病・軟腐病	やや多い
	イチゴ	灰色かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
		アブラムシ類	少ない
ハダニ類		やや多い	

中国地方1か月予報(3月30日～4月29日・広島地方气象台3月28日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は早い。
- ③4月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、発生を認めていない。
- ②ムギの生育は早い。
- ③4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①現在、発生を認めていない。

②ムギの生育は早い。

③4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 やや多い

予報の根拠

①予察灯による前年の新成虫の誘殺数は150頭（平年86頭）とやや多く、本年の越冬量はやや多いと考えられる。

②4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

①前年の発生量は平年に比べてやや多い。

②4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

①誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生圃率は0.0%（平年11.1%）、平均越冬虫数は0.0頭/バンド（平年0.3頭/バンド）とやや少ない。

②4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①3月下旬の発生量は、発生ほ場率が3.3%（平年0.3%）、発病株率は0.1%（平年0.0%）と平年並みである。

②4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①3月下旬の発生量は、発生ほ場率が20.0%（平年30.0%）、発病株率は0.9%（平年1.6%）と平年並みである。

②4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の越冬罹病株の発生量は、1万株当たりの発病株数は3.6株（平年7.1株）、発生ほ場率は30.0%（平年29.5%）と平年並みであったが、発病株率の極めて高いほ場も確認されている。

② 4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

注）平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号 参照。

(4) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発生ほ場率が43.3%（平年12.6%）、発病株率は1.3%（平年0.3%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が1.0%（平年0.9%）、発病果梗率は0.3%（平年0.3%）と平年並みである。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

① 3月下旬の発生量は、発病葉率が0.0%（平年0.1%）、発病果率は0.0%（平年0.2%）と平年に比べてやや少ない。

② 4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アブラムシ類（ワタアブラムシなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

① 3月中旬の発生量は、発生ほ場率が20.0%（平年24.1%）、寄生株率は1.0%（平年4.5%）、寄生小葉率は0.1%（平年1.6%）と平年に比べて少ない。

② 4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

① 3月中旬の発生量は、発生ほ場率が88.9%（平年63.7%）、寄生株率は60.0%（平年26.1%）、寄生小葉率は37.1%（平年21.7%）と平年に比べてやや多い。

② 4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

注）平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第2号 参照。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10か年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。
- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。

島根県病害虫防除所
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772
FAX 0853-24-3342
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp